Heimat ハイマート

ぐんま日独協会 会報 64 号

2024 年 9月 30日
発行者 鈴木克彬
発行所 ぐんま日独協会
〒371-0105
群馬県前橋市富士見町石井4129−219
電話：027-288-4297
E-mail：info@jdg-gunma.jp
ホームページ：jdg-gunma.jp/

日独交流赤城自然園散策会（2024年5月26日）

目 次

1．会長の言葉 1
2．今年度上半期前半の行事報告 2
3．西ドイツ・Hamburg 駐在体験記（その3） 11
4．日本専門司書が見たドイツ：ケルン日本文化会館の日々（その2） 14
5．日本百名山独訳（連載 13） 19
6．私の遠く過ぎ去った時代とドイツ（その 2） 23
7．ChatGPT などの AI 利用の勧めと落とし穴（その 2） 26
8．新入会員紹介 29
9．お知らせあれこれ（ドイツ大使館） 32
10．編集後記 33

1. 一極集中と外国人労務者の導入

会長 鈴木 克彬

最近の日本は、一極集中が益々激しくなり、国民特に若者達は皆、東京・大阪・横浜等々新幹線の駅がある都市に集中する傾向が見られます。今回はこの点について、ドイツと日本の現状を比較してみたいと思います。

ドイツは、16州による連邦共和国制であるため、税の徴収・起債等々、諸制度の権限が地方の各州に委託されています。各州にそれぞれの担当大臣がいる。そのため今でも、各州には特徴のある文化が残り、州政府独自の諸活動をすると共に、特徴ある大学が各地方に存在しています。要は地方分権が明確に存続しているのです。

それに対し日本の諸制度は、明治維新の時の政府方が、中央への権限の集中からスタートしたため、官公庁をはじめ政府機関、有名な企業の本社、有名大学等、すべて東京等の大都市に集中してしまいました。その上昨今は、多くの学生は大学を卒業すると、大都市で就職してしまい、地方には帰って来ないという現象が生まれ、益々地方の過疎化が進んでしまいました。

・・・極言すれば、一極集中です・・・

群馬県でも、高齢化と共に、若者の人口減少が進んでおり、空き家・空き地等がどんどん増えています。そしてこの流れは止まりそうもありません。群馬県は大都市への野菜類の供給基地としても有名ですが、国分の白菜・嬬恋村のキャベツ等々の生産すら、地元での担い手不足、減少化から、生産危機の声は止まりません。

その対策としては、多くの難民を受け入れているドイツと同じように、日本国の諸生産・諸工業等を維持するためには、東南アジア系を含めた外国人労務者を早急に受け入れざるを得なくなっている・・・と感ずる今日この頃です。

以上

2. 今年度上半期の行事の報告

Ⅰ. 特別講演会（4 月 29 日）「日本とドイツの温泉文化」

群馬県温泉協会会長　中澤　敬

日本とドイツの温泉文化は、それぞれの国の歴史や社会背景に根ざし、独自の発展を遂げてきました。両国とも温泉を大切にしていますが、利用方法や目的には違いがあります。

日本の温泉文化

日本の温泉は、古代から続く伝統的な癒しと治療の場として親しまれています。温泉地は自然豊かな場所に多くあり、山間や海沿いに点在する温泉地では、四季折々の風景を楽しむことができます。温泉に入ることで、自然との一体感を感じ、心身のリフレッシュが図られます。これを湯治と呼びます。

日本の温泉文化の特徴の一つは、入浴スタイルです。基本的に裸で温泉に入り、共同浴場では、タオルを湯船に入れないなど、マナーが守られています。また、男女別の浴場が一般的で、入浴時の礼儀作法が重視されます。温泉の種類も豊富で、硫黄泉や鉄泉、炭酸泉などさまざまな効能を持つ温泉があり、健康増進や疲労回復、病気の治療に利用されています。

さらに、日本の温泉は38度以上のものが多く、40 度以上の温泉が一般的です。これは、深いリラックス効果を得るために温泉に浸かって”温まる“という伝統的な入浴習慣が背景にあります。

泉質に関しても、日本は火山帯に位置しているため、温泉の種類が非常に多様です。強酸性から強アルカリ性まで幅広い泉質が存在し、それぞれが異なる効能を持っています。この多様な泉質は、日本の温泉の大きな魅力の一つとなっています。

温泉地は地域の文化や風習が色濃く反映されており、温泉祭りや地元の特産品など、訪れる人々にその土地ならではの魅力を提供しています。温泉地は単なる入浴の場を超え、心身を癒すだけでなく、文化的な体験も伴うものとなっています。

ドイツの温泉文化

ドイツの温泉文化は、治療や健康管理を重視したアプローチが特徴です。ドイツでは温泉を「ハイセ　クヴェレ」と呼び、温泉施設はリハビリや健康促進を目的とした総合的なウェルネスセンター（クアハウス）として発展しています。温泉療法は医師の指導のもとで行われることが多く、健康保険の適用が受けられる場合もあります。その際の療養はほとんどが個室で行われます。

バーデンバーデン　カラカラテルメ

一般的な温泉施設では、水着の着用が基本で、温泉プールやサウナを楽しむことができます。サウナでは裸での利用が一般的で、男女共有も広く受け入れられています。温泉プールはリラックスや

社交の場として利用され、家族や友人と共に楽しい時間を過ごされています。

泉質に関しては、ドイツの多くの温泉がナトリウム泉（Natriumquelle）に分類されます。ナトリウム泉は、特に関節痛や筋肉痛の緩和、血行促進に効果があるとされています。ドイツの温泉は、治療効果を求める利用者にとって理想的な環境を提供しています。ドイツの温泉の大部分は、温度が 38 度以下の源泉です。このため、長時間の入浴による体への負担を減らし、リラックスと治療効果を高められます。ドイツの温泉では医療保険制度が確立されていて、温泉で保険利用ができる、医療システムになっており、過去にはかなりの利用者がありましたが、今日、国に財政難より縮小され保険適応には制限があります。また、ドイツでは温泉が社交の場としても機能しており、友人や家族と共にリラックスし、会話を楽しむ場所として親しまれています。温泉施設は、単なる健康維持の場ではなく、心地よいひとときを過ごすための社交的な場ともなっています。

日本とドイツの温泉文化の違い

日本とドイツの温泉文化には、いくつかの共通点があるものの、その利用目的やマナーには明確な違いがあります。

まず、温泉の利用目的が異なります。日本では、温泉は癒しや精神的なリフレッシュの場として利用されることが多いのに対し、ドイツでは治療や健康管理が主な目的とされていますが、療養は個室で行われることが多いです。

また入浴マナーにも違いが見られます。日本では、入浴時の礼儀作法が男女別々、共同入浴の為、非常に重視され、共同浴場に入る為のルールが存在しますが、ドイツでは比較的自由で、温泉プールでは水着の着用が一般的です。さらに、温泉施設のデザインや機能にも違いがあり、日本の温泉は伝統的で自然との調和が重視される一方、ドイツの温泉施設は現代的で機能性が高いデザインが特徴です。

泉質の違いも重要です。日本の温泉は火山活動により多様な泉質を持ちますが、ドイツの温泉はナトリウム泉が主流です。また温泉の温度の違いが、国の特徴を表しており、”温まる“ことを好む日本は、入浴温度が比較的高く、多くの人々が湯船に浸かって、風呂に入る習慣はドイツにはありません。このことは、日本人が長寿の国として称されている一要因かもしれません。

このように、日本とドイツの温泉文化は、それぞれの国の歴史や社会的背景を反映しており、どちらも独自の魅力を持っています。両国の温泉文化の違いを理解することで、温泉を通じた異文化理解が深まることでしょう。

今、日本では、日本の温泉文化を世界に広めるため、ユネスコ無形文化遺産登録の推進を行っています。現在、群馬県が中心となり、全国旅館ホテル生活衛生同業組合のご協力により、全国に普及が始まっております。

草津温泉湯畑俯瞰

日本の“風呂に入り温まる”習慣は世界では余り類のないことで、こんなに風呂好きな国民も、世界広しといえども日本ならではの特色の一つと言っても過言ではありません。群馬県が全国の音頭取りになり、このユネスコ登録を目指し、スピリチュアルで癒しと健康に繋がる一連の日本の温泉文化を、世界に広める努力をしています。どうぞ皆様もこの運動にご参加いただき、日本の温泉の素晴らしさを知らせ、温泉から世界平和に繋げていきましょう。

Ⅱ－1．ドイツサロン（4月6日　於 陶豆屋）

去る 4 月 6 日（土）、高崎陶豆屋で今年度初のドイツサロンが開催されました。

当日は、富岡市に 30 年余りお住いの黒澤マリアさんをゲストにお招きして、お話を伺いました。高崎経済大学留学生のリタウさんとベアさんの二人も参加し、マリアさんは日本語とドイツ語の両方で話をして下さいました。

話の内容は、長くなった日本での生活、日常生活の事、そして現在お勤めの福祉施設について等幅広く貴重な話をしていただきました。

そしてマリアさんが最も伝えたかったのは、ご自身で書いたウド・ユルゲンスの歌の歌詞を参加者全員に配って下さったものでした。**ドイツと**日本の友好こそマリアさんの心からの望んでいる気持であると改めて感じた素晴らしいお話でした。

von Udo Jürgens,

Wenn ein Traum, irgendein Traum sich nicht erfüllt,
wenn die Liebe zu Ende geht,
wenn selbst die Hoffnung nicht mehr existiert,
nur Einsamkeit.
Wenn ein Blatt, irgendein Blatt vom Baume fällt,
weil der Herbstwind es so bestimmt,
wenn das Schicksal uns etwas nimmt,
vertraue da fest.

Denn immer wieder geht die Sonne auf...,

und wieder bringt ein Tag für uns ein Licht.
Ja, immer immer wieder geht die Sonne auf
und Dunkelheit für immer gibt es nicht.
Die gibt es nicht, die gibt es nicht.
Hör ich ein Lied, irgendein Lied, das wir gekannt.
Denk ich noch immer wie schön es war.
Wir waren glücklich, wird mir dann klar.
Denn Du warst hier.
Und wenn Dir irgend ein Mensch von mir
erzählt, ich hätt vergessen, denk' daran
und glaub an Morgen, denn irgendwann
stehst Du vor mir.

Denn immer wieder geht die Sonne auf ...

Deutsch-japanische Freundschaft
2024. April
マリア

＜日本語訳＞

ウド・ユルゲンス より

夢が、どんな夢も、叶わないとき
愛が終わるとき
希望すらなくなったとき
ただ さびしく
葉が どんな葉も 木から落ちるとき、
なぜなら 秋風がそうさせるから
運命が私たちから何かを奪うとき
信じましょう、時を

なぜなら いつも、再び 陽は昇る、

そしてまた一日　私たちに光をもたらす.
そう、いつも、いつも、再び陽は昇る.
そして 暗闇はいつもあるのではないから.
それは存在しない、存在しない.
聞いて その歌を，私たちが知っていた歌.
私は今でも それがなんて美しかったかと思う.
私たちは幸せだった、そして気づく.
だって あなたがここにいたから
そしてあなたに誰かが私のことを話したら
忘れていたかもしれない、そしてあなたを思い出し、
そして朝を思う.
なぜなら いつかあなたが私の前に立つ.

なぜなら いつも、再び 陽は昇る、

ドイツ・日本の友好

2024.4 月　マリア

黒沢マリアさん紹介

鈴木和子

2003年(平成15年)頃、群馬県庁の昭和庁舎内で『ドイツ人女性の先生がドイツ語講座を行っている』との情報を受け、主人共々昭和庁舎に出かけ、マリアさんにお会いしたのが、初めての出会いでした。その当時の彼女から『受講生にレベルの差があり過ぎて大変』とのお話をお聞きしたのを覚えています。

その後しばらくして、お仕事先で知り合った日本人の男性と結婚、富岡のご主人の実家で ご両親と一緒に生活を始められた、とのこと。お子さんは、長女・長男を育てられました。まもなくして優しかったご主人のお父様を亡くされ、とても残念だった、と話されました。

マリアさんはその後、ご主人のお母上のお世話もしつつ、地域のことにも心をよせられ、 高齢者の介護施設で働きはじめた、とうかがいました。日本人の女性でも大変なお仕事なのに・・・と思いましたが、彼女の持ち前の真面目さ、優しさ、心遣いで頑張ってこられたのだと思います。勿論ご家庭でのご主人そしてその母上のお世話のことも、さりげなくお話をされます。異国の日本でこれだけの生活をされること自体、“たいしたものだ”と感服しています。

先日(4月6日)のドイツサロンには、ご多忙の中ご出席、有意義なお話をたくさんしてくださり有難うございました。厚くお礼申し上げます。

Ⅱ-2. ドイツサロンに参加して（7月6日　於 陶豆屋）

大木静花

2024年7月6日（土）の午後、ドイツサロンに参加するため、陶豆屋さんに向かいました。約7年ぶりです。それまでは私の学んでいる柳生新陰流の稽古が、火曜と金曜の夜に中学校の剣道場をお借りして行われていたのですが、地域の方々が私たちのために新陰道場を建ててくださり、サロンの開かれる土曜の午後にも稽古が増えたからです。でもこの日は、ドイツ人の武道家がみえるということを聞いていたので楽しみにして参加しました。

ゲストの高山フロリアンさんは、とても気さくで明るい好青年でした。春に日本人女性とご結婚され、公益財団法人日独協会の研修生としてお勤めされているそうです。

パワーポイントを使ってのおはなしも興味深い内容で盛りだくさんでした。訪日前には学業の傍ら、ベルリンで養蜂家として本格的に活動され、16歳から香取神道流で剣術を学んでいたそうです。来日すると日本各地を訪れながら、コーヒーやドイツパン作り、三味線など、多くの活動に積極的に取り組んだおはなしをしながら、たくさんの仲間に囲まれている画像を紹介してくださいました。 サロンでは隣の席に座っていたので、ゆっくりおはなしすることができました。

私の新陰流もフロリアンさんの香取神道流も、日本の古武道です。しかし、互いに流派の名前は知っていても、実際にそれらを使う人に出会ったことはありませんでした。これは珍しいことではありません。スポーツとして共通の内容に整えられた現代剣道と違い、古来からの自分達の技や思想を口伝する古武道家同士は、なかなか出会う機会がないのです。

日光東照宮武徳殿

新陰流の竹刀や居合刀はいつも車に積んであったので、お見せしました。新陰流は室町時代後期に、前橋の上泉城の城主上泉伊勢守が創始した剣術です。武田信玄に攻められ落城した後、柳生家に受け継がれ、現在では22世宗家のもとで私たちが学んでいます。稽古では当時と同じ袋竹刀を使います。ひき肌の朱塗りの革袋に、日本刀と同じ長さの竹を割って入れたものです。この竹刀を考案したおかげで、それまでの木刀での寸止め稽古や大きな怪我を負うことなく（それでも防具をつけないため打たれるとけっこう痛いですが）、実際に思い切り打ち込める稽古ができるようになりました。現代の剣道竹刀の原型です。フロリアンさんは興味深そうに、袋竹刀を手にして何度も振っていました。

群馬の古武道大会（演舞）

おはなしをしていて驚いたのは、ドイツでは銃よりも真剣の日本刀を所有する方が困難な規則で、フロリアンさんも真剣を手にしたことがないということでした。日本でも帯刀は禁止ですが、許可証をくくりつけておけば所持はでき、私も自宅にあります。

私は日本刀の試斬に都内、日野の仲間のところによく出かけています。試斬とは濡らして巻いた巻藁を、刃引きした日本刀で斬ることです。歯筋の角度や力の入れ方などが正確でなければ斬り通すことができないので、形だけの稽古を省みることができます。フロリアンさんにおはなししたところ、機会が合ったら参加してみたいとのことでしたので、いつかご一緒できる楽しみができました。

今回はとても久しぶりにサロンに参加したにもかかわらず、会員の皆様にあたたかく受け入れていただき、あらためて感謝しております。欠席されていた鈴木会長ご夫妻にお会いできなかったのがとても残念でしたが、また折をみて参加したいと思っています。

少林山達磨寺にて

ドイツサロンの風景・陶豆屋にて

Ⅲ. 日独交流赤城自然園散策会（5月26日）

澤田 まゆみ

榛名の麓で育った私にとって、赤城は榛名ほど知らない山、そして「裾野は長し」でエレガント、ちょっぴり遠い存在である。しかし、10 年ほど前から「赤城自然園」の名を新聞や広報誌等で時々見かけるようになり、何度も「行きたい」と思った。尾瀬ほど遠くなく、大自然の中に身をおけるイメージがあったからである。家族を誘ってもなかなかタイミングが合わず、ここ数年何度も機会を失っていた矢先、ぐんま日独協会の令和6年度事業にこの散策会を見つけ、本当に嬉しかった。

5 月 26 日（日）午前 10 時の現地集合に間に合うよう、高崎から高速経由で向かい、駐車場に着くと既に多くの車。オリエンテーション会場ではドイツ人ゲストで高崎経済大学に留学中のエノラ・リタウさんとレオン・ベアさん、鈴木会長夫妻はじめ顔なじみのメンバーから初めてお目にかかる方まで総勢16人が集まり、顔合わせを行った。そしてこの企画の立役者で既に赤城自然園に何度も来ているという頼もしい平方秋夫事務局長と、赤城自然園のスタッフの方に解説をいただいて驚いたのは、この自然園はすべて人の手で時間をかけて作られたもの、ということだった。

園は、「セゾンガーデン」・「四季の森」・「自然生態園」という3つのエリアに分かれている。随分広そう（約60ヘクタール）で、予定表には「セゾンガーデン」を1時間ほど散策したら休憩し、その近くで昼食、その後「元気な人・歩き慣れている人」は「自然生態園まで足を延ばすことをお勧め」、その他カートに乗って昼食会場に行くことも案内されていた。私は普段運動不足で歩き慣れてもいないため、「セゾンガーデン」のみになるかと予測していたが、参加者の明るい雰囲気と、園の織り成すステキな景色（木々や花々、造形等）、楽しく美味しい昼食のお陰で思いがけずすべてのエリアをしかも無理なく楽しむことができた。

談笑しながらの散策

木々や花のみでなく、水場や小川、広場があり、小道を進むたびに様々な発見と感動があった。昼食予定会場のしばふ広場には皆で早々と着いてしまい、もう一つ先の「四季の森」にある森の遊び場まで足を延ばすことになった。そこまでの道のりではドイツで育って数年前に帰国したという、今回の参加者の最年少、小学生の吉田衛大さんと時々会話しながら進んだが、森の遊び場にあったトム・ソーヤーの冒険に出てくるような樹上小屋に颯爽とのぼる衛大さんはさすがに若々しかった。森の遊び場で持参したお弁当をひろげ、おいなりさんやお漬物、梅干しなどのおすそ分けまで有難く美味しくいただきお腹が落ち着いた頃、エノラ・リタウさんから嬉しいチョコレート「duplo」（イタリアメーカーながらドイツでもよく見かけるチョコウェハースバー）のプレゼントが！ 森の中でしかもドイツ人の方にいただく duplo は格別！ 幸せいっぱいだった。

森の遊び場（四季の森エリア）での昼食後に

その後、最近入会され、桐生から参加されたという石原瑞穂さんと 2 人で「自然生態園」をまわった。昆虫広場や昆虫館、トンボ池などを訪れな

がら、石原さんとドイツとの接点を色々伺ううちに、アニメ『葬送のフリーレン』の地名や人名にドイツ語がたくさん使われていることなどを教えていただき、楽しいいひとときだった。

「セゾンガーデン」の帰路では数人の参加者とシャクナゲ園経由で散策。見たこともない花を携帯で写真を撮ってその名前を Google で検索する方法も教えてもらい初めて挑戦した。このように色々な人に出会い、新しいことを教えていただいたり、経験できたりすることのすばらしさを改めて感じた。

自然園での鈴木会長夫妻

鈴木和子さんは、小さなスーツケースを持参され、時々葉っぱを巻き込みながらケースを引いていた。終始リハビリといって他の人が手伝うのを固辞されたが、時折会長は一緒に引いて、夫妻2人で自然園を歩く姿は何とも微笑ましく温かい気持ちになった。

ドイツの国土総面積の約3分の1（106,699㎢）、日本は約3分の2（250，000㎢）が森林だという。今回の散策は赤城自然園の理念「人間と自然の共生」をぐんま日独協会の皆様とだからこそ、より感じ、共有できた企画だったと思う。企画・運営に感謝しつつ定期的な開催があれば嬉しい。

Ⅳ. 2023 年度大使館絵画コンテスト作品展を開催（5 月31日～6月5日）

令和6年5月31日（金）～6月5日(水)まで前橋市中央公民館で 2023 年度ドイツ大使館主催「わたしのドイツ」絵画コンテスト応募作品展(県内 151 点)を開催しました。

土、日曜日には作品を書いてくださった小、中学生のみなさんがご家族と共に訪れ、作品の前で写真を撮る姿が見られました。

また 4 日にはドイツ大使館グロートフーゼン文化課長様や文化部担当のホーボルト様、ドイツエアフルト独日協会会長ご夫妻様もお見えくださり、小、中学生の作品を熱心に興味深く見ていただきました。そしてドイツへの関心の深さに感動なさっておりました。その様子は上毛新聞にも取り上げられました。

ドイツのイメージ 絵画に

小中学生の151点展示

前橋 ドイツ大使館主催の絵画コンテスト「わたしのドイツ」の応募作品展が5日まで、前橋市中央公民館で開かれている。県内の小中学生が描いたドイツにちなんだ作品151点を紹介している。グリム童話やサッカー、ビール、昔ながらの街並みなど多彩な絵が並ぶ。4日は、大使館や作品展に協力するぐんま日独協会（鈴木克彬会長）などの関係者らが現地で作品を鑑賞し、親睦を深めた＝写真。大使館のゼーンケ・グロートフーゼン文化課長は「マイナーなモチーフもあり、子どもたちの視点に学べることが多い」、ホーボルト幸夫さんは「ここ数年でイメージが多彩になってきたと感じる」と共に感心していた。鈴木会長は「題材をよく調べて描いている。両国の交流や学び合いにつなげたい」と語った。

作品展は午前8時半～午後4時。（村山拓未）

Ⅴ. 今年も共愛小学校で授業（7月5日）

共愛小学校 4 年生にホーボルト様が授業

7 月 5 日(金)に共愛小学校 4 年生にドイツ大使館文化部のホーボルト様が「ドイツについて知ろう」というテーマで授業をしてくださいました。これは3年前に行なったプロジェクトの継続で、共愛小学校では国際教育の一環として 4 年生のカリキュラムに組み込んでくださっています。

児童はたくさんの資料に興味津々でした。またホーボルト様からの投げかけに積極的に答えたりして、とても楽しくドイツについて学びました。また、おみやげで用意してくださった外務省とハリボーとのコラボのグミには歓声が上がり、一人一人が大切そうにお持ち帰りしました。

参観していた先生方もとても楽しく学べたことに感謝しており、大使館主催の「わたしのドイツ」絵画展にもこれから取り組むとお話されていました。作品の応募が楽しみです。

大使館行事担当：岡

Ⅵ. 日独スポーツ少年団同時交流について（7月30日）

瓜生郷子

今年も日独スポーツ少年団同時交流歓迎パーティーにおいて、ぐんま日独協会から補助通訳として4名（井上晃良、長谷川早苗、蓮沼龍子、瓜生郷子）がお手伝いに伺いました。

日独スポーツ少年団同時交流は、公益財団法人日本スポーツ協会日本スポーツ少年団とドイツスポーツユーゲント(Deutsch Sportjugend)との交流協定に基づいて、昭和49年(1974年)から行われている青少年の国際交流事業です。この同時交流は、日独両国間の夏休み期間中に、スポーツ活動を中心として、相互の文化・生活・習慣を実際に体験する国際交流となっています。

今年、ドイツ団は7月23日～8月6日の期間で100名〔（団員85名、引率指導者12名）、団長団3名〕が来日し、大阪に2日間、地方都市にグループで分かれて8日間、東京に2日間の日程で共通テーマを「スポーツが拓く社会の持続可能性」として活動。

群馬県がこの同時交流に参加する様になって今年が25回目、今年の地方プログラムは前橋市が中心となり、担当したドイツ団はHamburgからの来日でした。この地方プログラムでは来日したドイツ人青少年にホームステイを提供して一般家庭との交流を図ります。その顔合わせのパーティが初日に行われ、そこでドイツ人と受け入れ家庭とが初めて対面します。そのパーティーで通訳として、家庭ごとのテーブルで双方の橋渡しをするのが補助通訳です。

ぐんま日独協会としてのお手伝いは2012年ごろからで、はじめに故對馬良一氏（当協会名誉理事副会長）が依頼を受け始まりました。今年の地方プログラムの開催は7月30日で歓迎パーティーは群馬県庁31階「ギンガム」というスペースで行われました。受け入れ家庭の多くはドイツについて多くを知るわけではないですが、カタコトの英語で熱心に親睦を図ります。各家庭の頭を悩ませるのは何が食べられるか、食べてみたいものは何か、近隣で遊びに行きたいところはどこか、布団で寝ることができるのか、など様々です。我々の持っているドイツに関する知識を合わせながら通訳をします。

オープニングセレモニーの後、ホストファミリーごとのテーブルに分かれ、用意されているバイキングスタイルの軽食を取りに行きます。この提供されている食べ物に関するアドバイスから我々の仕事は始まります。こんにゃく、お稲荷さん、たこやきなどは説明が必要となります。それをきっかけとして補助通訳は家族の相談に乗りながら、滞在期間の生活が楽しいものになる様に橋渡しをすることとなります。日本のスポーツ少年団が考えたゲームの時間もあり、折り紙などを家族と共同で作りながら交流を図る時間も設けられます。30分ほどすると身振り手振りにも慣れてきて、意志の疎通が楽しくなりお互いの緊張感がほぐれてきます。パーティー終了後、ドイツ人たちは次の日の朝にはまた合流する同じ団の仲間たちと別れを惜しみつつも、スーツケース引いてホストファミリーの車に乗り込んで行きました。

3. 西ドイツ・Hamburg 駐在体験記（その 3）

杉本 隆雄

1968 年9月、東西分裂時代の西ドイツ・Hamburg で商社現地法人に勤務を始めました。その体験につき纏めてみたらとのお誘いを受けたので思いつくままに細かいことまで順不同で書いてみました。今回が第三弾となります。

【ドイツ人の洗濯 こぼれ話】

或る日本人家庭でドイツ人家政婦を頼んだ。ドイツの洗濯機は通常 90 度 C まで温度を上げて使用します。その家政婦は下着等と一緒に靴下や布巾まで一緒に洗濯槽に入れて洗濯したそうです。日本夫人は、布巾や靴下は別々にして欲しいと頼んだ処、家政婦は「大丈夫だ、この洗濯機は 90 度 C で Kochen する、煮るのだから清潔なのだ」と反論したそうだ。ドイツ人らしい主張ですが日本人の清潔感覚には合わないでしょうね。

【Urlaub 有給休暇】

ドイツを語る時に外せないのが Urlaub。ドイツ人は Urlaub のために働いているのではないかと思えるほど、会話には Urlaub の話題が多い。ドイツ企業の有給休暇制度は第一次大戦前からの制度と聞いています。今の Urlaub を律しているのは 1963 年に制定された連邦休暇法です。週5日勤務の場合は年 20 日、週 6 日勤務の場合は年 24 日が法定最低休暇日数。当社でも一般的な 30 日でした。年初、ドイツ人スタッフはお互いの仕事に支障が出ない様に URLAUB 表を回してそれぞれの休みを設定します。普通、最初に 2 週間とって、次の2週間はまとめたり、分割して 2~3 日ずつ分けて休むのが一般的です。年度末、とんでもない時になって、明日休みます、Urlaub があと 1 日残っていますので等と言う社員も居ました。Urlaub の計算は極めて正確で、取得率は完璧 100%です。休暇中はあちこち動きまわるのではなく、じっくり一カ所で静養し英気を養うスタイルの様でした。一旦決めた自分のスケジュールは絶対に動かしません。取り引き先にも「彼・彼女は今 Urlaub」と言えば「そうか」と文句なしで納得するのがドイツの習慣です。行先の詳細は聞かないのですが、例年、南ドイツ山地の定宿でのんびりするという家族もありました。遠くまで行く人は地中海のマヨルカ島や更に遠くタイの保養地に行く人などもいました。日本人スタッフはお休みの無い日本側の本社や海外支店と毎日 TELEX 通信網で繋がっていますので、なかなか休めません。隙間をみてちょこちょこと短い休みをとる以外ありませんでした。

【ドイツの小学校=Grundschule】

日本から子連れで転勤して学齢期に達すると学校の選択に迫られます。現地校か International School か、どちらかです。当時は Hamburg には正式な日本学校はなく、土曜日に日本人補習学習というのがあり、日本から派遣された先生方が授業をおこなっていました。土曜日の午後、ドイツの小学校の部屋を幾つか拝借して、日本から派遣された教員が国語、算数、社会などを教えていました。これは後々有効な日本式勉強でした。現在では日本国政府の支援で、全日性の日本人学校が設立

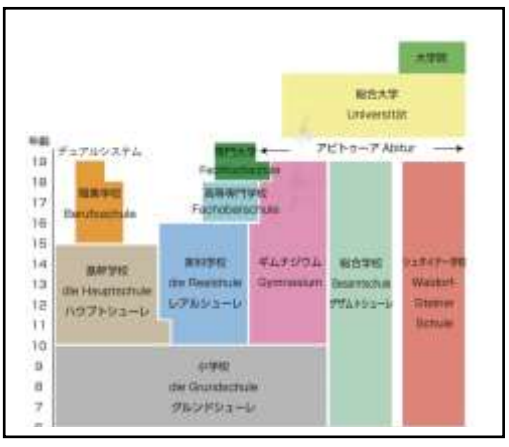
されております。私は子供をドイツ人に仕立ててみようと思い、臆する事無く、住居近くのGrundschule- Sethweg(通りの名前)に入学させました。

担任は Elise Meier 女性教師。この Meier 先生には 大当たりだったと思っています。Meier 先生は異国の少女を早くドイツ人に仕立てようと思ってくれたか、通常ドイツの学校は正午で終わりますが、先生は我が娘を自宅に連れて行き、食事や買物、その他の生活を共にして夕方 17 時ごろ VW カブト虫に載せて我が家に連れてきてくださいました。娘のドイツ語はめきめき上達し、4年次終了時には外国人ながら Hamburg- Bondenwald という Gymnasium に合格することも出来ました。これは総て Meier 先生のお陰としか言いようがないと我が家一同感謝しております。子供をドイツの学校で教育していただきましたが、先生からは、子供の教育は学校と家庭との共同作業だとの認識を与えられました。学校は昼 12 時で終わります。午後は家庭で教育して下さいとの意味があるとのことです。子育てに関する親の責任の重さを問われます。もう一つ大事なこととは、先生は上から「教える」のではなく、子供の自主性を優先した教育を行うという事です。先生はそのための指南役です。自主的に発言できる子供を育てるということが感じられました。まさにドイツ語の教育＝Erziehung–erziehen なのです。er は中から外への運動の方向を意味する、ziehen は引っ張り出す、発想・発言の意味です。子供たちは皆それぞれの主張をもって育っていきました。私達が帰国後も先生との縁は切れず、先生は2度も来日、我が家をベースにして日本のあちこちを見て回りました。

（↑Heimatkunde 郷土の研究　Elbe 川流域の産業調査
娘のクラスの児童たちの自主的研究）

【Gymnasium/Realschule】

Grundschule の同級生も何人か進学しましたが、急に大人になった感じがしました。ドイツでは小学校卒業の 10 歳児が Gymnasium に進学するか、職業コースに進学するかで将来を決めるのは可哀そうだなどと言う人もいます。娘の同級生男女の友達がよく遊びに来ました。職業コースに進む男児は「僕は父親と同じく自動車修理工になるのだ、故障した自動車を直してあげる、なんと素晴らしい事ではないか」と目を輝かせていた（この時私は彼から heil machen という言葉を学んだ）。郵便配達になるという子供も「手紙を待っている人に手紙を配る、素晴らしいことだ」と希望に燃えて言ったのが忘れられない。彼らは Grundschule の後、基幹学校→職業学校、見習い社員の過程を経て MEISTER になる。ドイツの職業人は皆誇りが高い。わが社でも職業学校の見習い社員を採用しました。それぞれのコースの学校に行きながら週に2～3日半日程度出社、それに対して当時の賃金で DM200 程度を支払いました。2～3 年修行後、GESELLE としての試験に合格させる責任を企業は負います。それが受かると Lehrling と呼ばれる見習社員となり、やがて Meister 試験を受けてその分野の達人になっ



ていくのです。社内では老練なドイツ人社員が適切に指導しておりました。世話になった会社の競争相手会社にもなんの躊躇もなく転職するのも誠に無遠慮です。

【日常の買い物】

近所にはドイツやオランダ資本の EDEKA や SPAR 等の、今風に言えばコンビニサイズのお店が散在していて極めて便利でした。お店は通常、都心の大きなデパート KARSTADT 等も同じく、土曜日の午後は閉店、ですから仕事を持っている主婦は、土曜日午前中に買物に走り回るのに忙しかったです。わが社の女性社員は事務所の真ん前が KARSTADT、日本で言えば高島屋か三越なので、仕事の合間に買い物をしていたので便利だったと思います。私達も良いものを買おうと思えば矢張り KARSTADT でした。些細な事ですが印象に残っているのは NUTS 類の売り場でした。アーモンドやカシュウナッツの売り場ですが、ピスタチオだけは機械で温めながら販売しておりました。温めると味が違うのです。お試しください。肉類、Wurst ソーセージ、Schinken ハム、Käse チーズ類は流石に本場、品ぞろえも豊富で楽しみな買い物ができました。ドイツ人社員に「日本では土日でも店は開いている、週末の買い物にも困らない」と話したところ、そんな不平等が何故許されるのか、その人達はいつ休むのか、家族と一緒にくつろげないではないかと論争になったことがありました。魚介類は Hamburg 港の空き地で毎週日曜日に開かれる Fisch Markt 魚市場で新鮮なものが購入できました。北海から約 120 ㎞、小さい漁船ならばそのまま遡ってきて漁師が販売します。あの地域で最もポピュラーな魚は Nordsee Scholle 北海の鰈です。漁師から購入すると、いとも造作なく普通の鋏で魚の頭や背びれ、尾びれなどジョキジョキと切って紙袋に入れてくれます。鋏で魚を処理するのを初めて見たときは唖然としま Fischmarkt では魚類のみならず、食肉、野菜、繊維製品、日用品類も売って居ました。販売人は日本のバナナのたたき売りみたいな元気な人もいました。うなぎも居ました。いわゆるヨーロッパウナギで太平洋うなぎよりも長くて太い。ここでは太いまま輪切りにしてスープとして食するようです。鰈を河豚の様に薄切りにする術を学ぶと、本当に河豚の様でした。日本からの来客の自宅接待の際にも供したことがありましたが、Hamburg で河豚が食べられるとは思っても居なかったと言った人もいたくらいです。薄切りなどは日本人の特技だったと思います。序に言いますが、自宅でのしゃぶしゃぶ用の薄切り肉は近所のスーパーで買いました。肉を切るのも Fleischer という Meister 資格の一つで、彼が昼食の時など代わりの人は肉を切ることが出来ません。彼の食後まで待っていることになります。ドイツでは肉をシャブシャブのように薄く切ることなどありませんから、妻はその Meister に薄く薄くを仕込んで彼も wie Papier ne? 等と言って仲良しになりました。

（手に持っているのがヨーロッパウナギの燻製）

4. 日本専門司書が見たドイツ：ケルン日本文化会館の日々(その2)

蓮沼　龍子

会館図書館を巡る人々

・現地職員と仕事の周辺

ケルン日本文化会館の職員数は 15 名、内訳は、日本人 9 名、ドイツ人 6 名でした。Japan Foundation 東京本部が派遣する日本人職員 4 名は 2 年から 6 年で交替し、同じく本部派遣の日本語講師 2 名は 2~3 年で交替しますから、毎年のように職員の入れ替えがあります。無期雇用の現地職員 9 名のうち日本人は 3 名ですが、ドイツの労働法の下で勤務しています。

現地採用の同僚を見ていて気付いたこと、これはケルンの会館だけかもしれませんが、職員は職場の近くに住む傾向にあり、一番近い人は家から会館まで徒歩 10 分の距離でした。ドイツでは鉄道、市電、バスの遅延が多く、ストライキも行うため、時刻表のとおりに来るとは限らないからです。同僚の中には家族と郊外に住み、自転車で通勤する人もいました。ケルンの市街地は道路の渋滞が激しいので、自家用車を使うのはストライキで出勤が困難な時だけにしているようでした。

現地職員は、定時に仕事を終えて帰る人がほとんどで、残業はどうしても仕事が立て込んだ場合のみでした。私が勤務を開始した当時は残業代が支払われたのですが、その後、現地職員は残業した時間数を別の日に代休を取って補うことになりました。そうすると自分の業務と時間の管理が重要になり、稀にですが、仕事量が増えて残業が多くなり、代休だけで 1 ヶ月休める人が出たこともありました。その場合は会館側が代休を買い取る、つまり残業代を支払うこともあるそうです。有給休暇については決められた期限までに完全消化することになっています。日本では病気になった時に代休や休暇を取る人がいるようですが、ドイツでは病欠は有給休暇と別に取得します。病気についてはプライベートなことですから、どんな病気かを上司に言う必要はありません。医者が書く就労不能証明書 Arbeits-unfähigkeitsbescheinigung には病名の記載がなく、そこに書かれた療養期間だけ休めます。しかし、会館のような小さな職場では、自分の病欠中に一部の仕事を同僚に代わってもらうこともありますから、同僚には話しておくケースが多いです。給与については、ドイツでは一般的に 13-Monate と言って年間 13 ヶ月分支給されます。つまり毎月 1 回 12 ヶ月分とボーナス 1 ヶ月分です。退職金はありません。また一般的に昇給は 50 歳代までですが、政府が決めた年金支給開始年齢までは自動的に勤務できます。同じ仕事を続ける場合、給与が下がるということはなく、日本の一部の企業のように 60 歳になったから雇用契約を変えて、実質賃金が下がることはありません。

・同僚

同僚との関係は仕事だけで、仕事の後に飲みに行くことは皆無に近いです。但し、職場で昼休みに新年会やクリスマス・パーティー、カーニバル時期には昼食会を行うことはありました。それも近年は現地職員の高齢化のためか、幹事役がいなくなり開かれなくなりました。

同僚との話で盛り上がるのは休暇の過ごし方です。休暇から帰ってきたドイツ人に「どうだった？」と聞くと自分の休暇がいかに有意義で楽しくて素晴らしかったかを説明してくれます。休暇を取って申し訳ない気持ちになる日本人には、そのように自分にとって休暇の意義をうまく説明することにはなかなか慣れませんでした。

それから、同僚だけでなく、ドイツ人一般に言えることですが、お付き合いで大切な事は、誕生日のお祝いです。プレゼントをしなくても、その人の誕生日を覚えていて「おめでとう」と言って握手するだけでも良いのです。ドイツ人にとって誕生日は自分が世界で一番の王様、女王様になる日であり、誕生日に休暇を取って仕事を休む人もいます。会館の特殊性かもしれませんが、誕生日を迎えた職員の席に皆で押しかけ、プレゼントを渡して誕生日を祝う習わしがあります。私が勤務を開始した当初はなかったのですが、いつ頃からかそのような祝い方をする習慣ができました。どのようなプレゼントを選ぶかは日頃のコミュニケーションがポイントになり、その同僚は何が好きか、どんな趣味を持っているかについて知っておくことが大事になります。誕生日に祝われた人は、お礼として当日または後日、他の職員のためにケーキを買うか、自分で焼いてふるまう暗黙の決まりがあり、それは年に一度のおやつ当番のようなものでした。

同僚も含めて、総じてドイツ人は率直に自分の意見を言い、自分の立場を明らかにしますから、何を考えているか、喜んでいるのか怒っているのかがわかりやすく、付き合いやすい人々と私は思っています。

・図書館アルバイト

私が勤務を開始した 1994 年には私の他にアシスタントつまり司書補助、そしてドイツ人アルバイト 1 名がいましたが、2004 年から予算削減でアシスタントのポストが削られ、私とアルバイト 1 名で図書館を運営していくことになりました。アルバイト採用の条件はドイツ語がネイティブ・レベルであること、日本語を読めること（初中級）でしたから、自然と日本学を学ぶ大学生になってしまいます。

アルバイトのポストは 1 日につき 1 名配置になりますが、休暇や病気で勤務できないこともあるため、毎日開館するためには 4 名から 6 名の人員を抱えてシフトを組むことになります。時々、本来の仕事よりもアルバイト・シフトを組む方に時間を多く取られ、人材派遣業者になった気がしたものでした。ドイツ社会の変化と共に、学生アルバイト気質も少しずつ変わってきたように思います。

20 年前くらいまでのアルバイトは、両親がドイツ人である、いわば生粋のドイツ人がほとんどで、中には東ドイツ出身者もいました。その後、ドイツが東西に分断されていたことを知らない世代が増えてきたばかりか、両親のうち片方のみがドイツ人であるアルバイトとか、両親ともドイツ人でないが幼い頃からドイツで教育を受け、ドイツ語がネイティブ・レベルの大学生がアルバイトとして加わりました。クロスボーダーの具体例は、クロアチアからドイツに移住した両親を持つ学生、両親はポルトガルからルクセンブルクへの移住者で現在ドイツに留学している学生などです。また当初女子学生だけだったアルバイトも、次第に男子学生、更にトランスジェンダーが加わり、多様性を持ったアルバイト・チーム構成となりました。長い間、学生アルバイトを見てきて、いくつもの仕事を並行して処理することができる器用で如才ない学生が近年増えてきた感じがしました。そして国際的感覚を持ち、コンピュータ・リテラシーも高い人材が集まるようになり、大いに業務を助けてもらいました。

学生アルバイトの気質で以前と変わらない良さは、環境保護の立場で物事を考えることです。例えば、仕事で余った 5 センチ四方の小さな裏紙も捨てずに、メモ用紙として使おうとクリップしてためてお

くのには本当に感心しました。また環境だけでなく自分の健康にも関心を持つ若者が増え、ベジタリアン、ラクトーゼ・フリーの食事をする人、それにビオ製品しか食べない人も見られるようになりました。ある学生アルバイトは「ブロイラーで育てられたニワトリの玉子は食べない、牛舎に繋がれた牛のミルクは飲まない、なぜならストレス一杯の玉子やミルクを摂取すると自分の体にもそのストレスが入ってしまうから」と言い、「なるほど、そういう考えもあったか」と気付くこともありました。アルバイト中には数週間で辞めた人、6 年以上働いている人もいて、在職期間中、100 名のアルバイトと勤務しましたが、皆それぞれに個性豊かでした。図書館のアルバイトは日本学を勉強し、日本に興味があって日本が好きという人ばかりですから、一緒に働いて共通の話題も多く、最近の日本のアニメや音楽など、特定の分野においては私より知っていることもあるくらいで、勉強になりました。

・図書館利用者

図書館にはコロナ禍前は年間 6,000 名程、1 日平均 20 名前後の利用がありました。年 2 回の会館オープンデーには、1 日 500～600 名ほどが来館します。来館者の内訳はケルン、ボンなど近郊に住む大学生、日本語学習者、ギムナジウムなどの学生、日本に興味がある一般の方々、そして日本人です。比率では日本人が 2 割、ドイツ人・ドイツに住んでいる日本語を母語としない方が 8 割を占めます。図書館では来館者への貸出業務の他、調査依頼に対する回答、つまり参考調査も比重が大きい仕事でした。

ここでドイツ在住者からどのような問い合わせを受けたか紹介してみましょう。私が勤務を開始した 1994 年にはまだインターネットが普及しておらず、本がどこにあるかを調べるのにカード目録を使う時代でした。当時は日本経済やジェンダー研究として芸者について論文を書く学生が多く、芸者についての学術書が盗まれたこともありました。忍者も人気のテーマで日本で忍者の修業をしたいと真剣に質問する人もいました。それから刺青をしたいドイツ人が、参考のために日本の刺青の本を見たいと探しに来ることも多々ありました。日本映画、建築、旅行ガイドブック、更に日本出張の時のためのビジネスマナー、日本文学についてもよく問い合わせが来ました。大江健三郎については、1994 年のある日、何人ものジャーナリストから彼の経歴について電話で問い合わせが来るので不思議に思っていたところ、そのうちの一人から「大江健三郎がノーベル文学賞を受賞した」と教えてもらったことがありました。1995 年オウム真理教による地下鉄テロの日もジャーナリストの問い合わせが多く、それで事件の発生を知りました。

しかし、徐々にインターネットが普及し、ドイツ人が日本の情報を自宅で簡単に検索できるようになるとジャーナリストからの質問が減ってきました。一方、一般の方からも、例えば「お箸の使い方について」というようなインターネットで簡単に調べられる質問は来なくなりました。概観すると 2000 年以降は教育、ラーメン・和食などの食文化、そしてポップカルチャーに関する質問が増えてきた、と言えます。問い合わせの世代交代と言いますか、流行りすたりもあり、例えば映画監督など、新しい日本映画作品がドイツで上映されるとその監督についての問い合わせが増えてきます。建築家も然りです。旅行ガイドブックの需要も、以前は京都、東京がメインでしたが、四国八十八箇所、熊野古道など、トレッキングも楽しめる体験型に変わっていきました。当時は熊野古道に関する英語・ドイツ語で書かれたガイドブックは見当たらなかったのですが、外国人に人気が出たためか、現在は熊野古道ウ

ェブサイトに英語版があります。日本文学においては、明治・大正時代の作家より、村上春樹をトップに小川洋子など現代の小説がドイツ語に翻訳されて読まれるようになり、日本のサスペンスも好まれています。

ドイツ人からの問い合わせ

変わらないテーマ

- 日本の美意識（侘、寂、間）
- 建築、特に現代建築
- 日本社会の特徴・社会問題
- 禅
- ライフスタイル（食文化を含む）
- 人探し

私の在職期間中、繰り返し問い合わせがあったテーマをキーワードにするとここに書いたようになります。日本人の美意識というのは、茶道とか芸術作品に於いての侘び、寂び、そして建築・庭園などにおけるスペース、間についてであり、感覚としてわかっていてもそれについての資料はあまりないのが現状です。建築については、Bruno Taut は桂離宮に興味を持ちましたが、今のドイツ人は現代日本の建築に興味があるようです。幸い日本で出版される建築関係の本には英語が併記されたものが多いので、資料提供には困りませんでした。それから、日本社会の特徴と社会問題に関する問い合わせは大学生の論文テーマとして取り上げられることが多く、タテ社会、先輩・後輩の関係、甘え、ホームレスなどに関する資料が求められました。宗教では、特に仏教の禅に惹かれるドイツ人が多く、それに関するドイツ語著作も比較的多く出版されています。近年はますます日本人のライフスタイルに興味を持つドイツ人が増え、料理だけでなく、断捨離・片付け方法など幅広く関心を持っているようです。時々、人探しも依頼されました。昔の知人がどこに住んでいるか知りたいとか、明治時代にミュンヘンへ留学していた日本人男性の消息とか、20 世紀初めに教育関係で中国に派遣されてそこでドイツ人と結婚した日本人女性のルーツとか、少ない手掛かりで調査を依頼される上、様々な制約もあり、満足した回答ができないことが多いです。

たまたま手元にコロナ禍前 2019 年の問い合わせのうち、私が回答するのに苦労したテーマのメモがありましたので、ここに挙げてみます。

「平成天皇が退位の時に被っていたものは何か」

ドイツ人女性が電話で問い合わせてきたのですが、私がそのニュースを見ていないと回答できません。したがって、どのニュースを見たのか聞き、自分でもインターネットで写真やニュース番組を見てから回答に取り掛かります。日本で何が起こっているかを日々チェックしておくことが大事になります。

「1980 年代にドイツに紫蘇が流通していたことを確かめる資料」

これは貿易関係者からの依頼でした。問い合わせメールには「ドイツにおいて紫蘇が何十年にもわたって馴染み深いものであると証明できれば、輸入関税率を下げる論拠になるから該当する資料を探してほしい」と理由が書かれていました。

「戦国時代の火の起こし方」

あるドイツ人女性作家が日本の戦国時代を舞台とした小説を書いていて、その中の描写で必要だから知りたいとメールで問い合わせてきました。日本語の資料はようやく見つけましたが、英語・ドイツ語で書かれたものはなく、そこに苦労がありました。

ドイツ人が日本の何に興味を持っているかを概観してみると、私の前任者が着任した1980年代前半は一部のドイツ人が異国趣味として日本の芸術・文学などに興味を持っている状況だったそうですが、1980 年代後半から 1990 年代前半までは、特に大学生など日本の経済、更に日本社会に関心を寄せるようになったようです。1990 年代後半からは日本のアニメやマンガで育った世代が大学生や社会人になり、しだいに日本が比較的近い存在と認識され、広く日本のライフスタイルやポップカルチャーについて知りたい人が増えてきたと言えます.

おわりに

ケルンの図書館での仕事についてはいくつか論文などを書いていますので、図書館について興味がある方は参考になさっていただければと思います。

主な図書館関係著作

- コラム：ケルンの司書，彷書月刊，1994.10-1999.8.
- ケルン日本文化会館図書室：ドイツに於ける日本情報提供の場としての役割. 図書館雑誌，1997.4，vol.91, no.4，p.270-272.
- 日本資料図書館連絡会の活動とドイツ語圏日本関係図書館の展望．ベルリン日独センター報告集，2001.3，no.25.
- 日本情報提供の最前線：ドイツの日本専門図書館からの報告. 専門図書館，2014.11，vol.268，p.22-27.
- COVID-19 禍による閉鎖から再開、そしてその後　ドイツの日本専門図書館の記録. 専門図書館，2020.10，vol.301-302 合併号，p.56-59.
- ドイツの日本専門図書館の取り組み：日独交流 160 周年に寄せて．大学図書館研究会誌，2022，no.47．P.43-64.

実際にはドイツの一部分を紹介しただけですが、図書館業務を通して見たドイツが皆様の一つのドイツ理解に繋がれば嬉しく存じます。

ご清聴、ありがとうございました。

【注記】本稿は 2024 年 1 月 6 日の講演原稿に加筆。2024 年 4 月 16 日脱稿。

（完）

5. 日本百名山 独訳 － 連載 13

深田 勝弥

61 美ヶ原 （2034 米） *Utsukushiga-hara* (2034 Meter)

61-01

高原という言葉は、新村出博士の説によれば、明治以前の辞書には登録されていないそうである。タカハラと呼ぶ地名はあった。しかし今日私たちが言うところの高原は、多分西洋の地理学が入ってきて、プラトーまたはテーブル・ランドの訳語として、登用されるようになったのだろうという。

Nach der Lehre von Dr. *Niimura Izuru* soll es kein Wort genannt *Kohgen* (Hochland) in das Wörterbuch vor der *Meijizeit* (1868-1911) eingetragen sein. Es gab den Ortsnamen *Takahara*. Aber der Name *Kohgen*, den wir heute nennen, soll mit der europäischen Erdkunde eingeführt werden, als Entsprechung des Worts, Plateau oder Tafelland.

61-02

高原の語義もさることながら、高原の趣味もたしかに明治以後に起こったものである。それまでの日本人の自然観は、専ら南画風の林泉の趣に執着して、開闊な草原を愛した形跡は、芸術作品上にも見られない。封建時代が終わって、自由な思想が拡がり、外国文学の自然描写や洋画の影響もあって、次第に高原に美を見出してきたのであろう。西洋人によって軽井沢が開かれたことなども、一つの素因かもしれない。

Der Wortsinn *Kohgen* (Hochebene) ist zwar richtig, aber seiner Geschmack ist auch sicher nach der *Meijizeit* entstanden. Bis dahin hing Japaner an der Naturanschauung des alten Chinas; Blumen, Bäume. Deshalb gab es damals keine Anschauung über den weiten europäischen Wiesen. Nach der Feudalzeit mag Japaner, durch das Wachstum der liberalen Gesinnung in der Beschreibung in der Literatur und Malerei, die europäische Schönheit gefunden haben. Es kann die eine Ursache auch sein, dass Erholungsort *Karuizawa* von Europäer erschlossen wurde.

61-03

その後登山が盛んになるにつれて、高原を愛する人も多くなり、やがて山と高原と並び称せられるようにさえなった。白樺という、それまでは雑木扱いにされていた木が、ロマンチックな風景として役立ち、

農耕牛馬の放し飼いの荒涼地が、牧場という新しい言葉で呼ばれ、遠くの山々がセガンテイニの絵のように眺められるようになって、もはや高原逍遥は登山の大きな分野を占めてしまった。起りが西洋趣味であるから、高原という言葉が手擦れてくると、近頃はアルプスという語が用いられ始めた。アルプスの本来の意は、スイスの高山山腹の夏季牧場だそうである。私たちはすぐ明るい太陽と、爽やかな風と、色さまざまな花のしとねと、牝牛の鈴の音とヨーデルを想像する。

Danach wird das Bergsteigen je reger, desto mehr werden die Liebhaber ans Hochland, wird bald das Wort Hochland mit dem Berg gleichgesetzt. Obwohl die Birke bis dahin für Gehölz gehalten war, doch wird sie heute eine romantische Landschaft. Die Wildnis, wo die Pferde und Kühe für die Ruhezeit geweidet haben, ist genannt jetzt das Wort *Makiba* als neuen Namen. Und die fernen Berge zu sehen ist, wie das Gemälde des Seganitnis (Schweizer Maler) zu sehen. Deshalb hat die Wanderung im Hochland schon die Mehrheit des Bergsteigen gebildet. Weil diese Wanderung der europäische Geschmack ist, hat Wort *Kohgen* sich an das Hochland gewöhnt. Daraufhin wurde das Wort *Arupusu* (Alpen) neuerdings das gebräuchliche Wort. Dieses Wort soll eigentliche Alm bedeuten (eine Wiese im Hochgebirge in Schweiz, zum Sommer das Viehe weidet)sein. Aber wir stellen uns bald die scheinende Sonne, den frischen Wind, die Kissen von verschiedenen Blumen, die Schellen an den Kühen sowie Jodellieder vor.

61-04

そういう高原の中で第一に挙げたいのが美ヶ原（うつくしがはら）である。ここほどその条件にかなった所もないだろう。大体二千米前後の高度を保って豊かに起伏した原である。北アルプスの二、三の原（例えば五色ヶ原や雲ノ平）を除いては、これだけ高い原はない。その高（たか）さに広（ひろ）さを加えると、まさに日本一かもしれない。そのさまは尾崎喜八氏の『美ヶ原熔岩台地』にみごとに歌われている。

Aus solchen Hochland möchte ich am ersten *Utsukushiga-hara* auswählen. Kein Beispiel ist so passend mit meiner Bedingung als andere. Das Plateau ist etwa 2.000 Meter hoch und reiche Hügelkette. Außer den einigen in nördlichen Alpen (z.B. *Goshikiga-hara* oder *Kumono-hara*) gibt es kein so hohes Plateau. Seine Höhe und Umfang können am ersten Platz in Japan sein. Diesen Anblick wird in Gedicht „Lavaplateau *Utsukushiga-hara* von Herrn Ozaki Kihachi schön ausgedrückt.

61-05

登りついて不意にひらけた眼前の風景に

しばらくは世界の天井が抜けたかと思う。

やがて一歩踏み込んで岩にまたがりながら、

この高さにおけるこの広がりの把握になおも苦しむ。

無制限な、おおどかな、荒っぽくて、新鮮な、

この風景の情緒はただ身にしみるように本原的で、

尋常の尺度にはまるで桁(けた)が外れている。

Den Berg erstiegen,

fällt plötzlich eine Landschaft

mir in die Augen.

Ich fühle eine Weile,

die Decke über Welt weg.

Dann auf den Fels geklettert,

kann ich diese Ausdehnung

auf dieser Höhe nicht begreifen.

Das Gefühl an die Landschaft

unbegrenzt, friedlich, rau, frisch,

eingesichert ursprünglich,

ganz außergewöhnlich groß.

61-06

全く、桁が外れて広い。美ヶ原の範囲はどこまでを指すのか知らないが、南の茶臼(ちゃうす)山から北の武(たけ)石峰まで、広闊な草原が、果てしもないように続いている。さあ、どこでも勝手にお歩きなさい、といった風に続いている。

Das ist richtig außergewöhnlich weit. Obwohl ich den Bereich von *Utsukushiga-hara* nicht weiß, verbreitet sich die Ebene, wie grenzenlos von Süden Berg *Cha-usu* bis Norden *Takeishi-mine*. Wie sägte, „Ja, du kannst ruhig überall wandern“.

61-07

その広さに、更に眺(なが)めを付け加えよう。以前松本平の人々は、美ヶ原を東山、北アルプスを西山と呼んだそうだが、その西山の最重要部分、槍、穂高の連嶺を、東山からまざまざと眺めることが出来る。その豪快な山容を鑑賞するのに、最も適した距離である。その眺めに呆然としてから、眼を他へ移すと、別の多くの山々が我も我もと名乗りをあげてくるのに接するだろう。

An dieser Weite möchte ich noch einen Ausblick einfügen. Der Einwohner in *Matsumoto-Daira* soll früher heutigen *Utsukushiga-hara*, *Higashi-yama,* und auch heutigen nördlichen Alpen, *Nishi-yama* genannt haben. Die wichtigsten Berge *Yari* (54) und *Hotaka* (55) in *Nishi-yama* sind zu sehen deutlich aus *Higashi-yama*. Der beste Abstand ist hier, um ihrer großen Gestalt zu genießen. Über diese Gestalt erstaunt gewesen und Sicht gewandelt, kannst du viele andere Berge auf einmal erscheinen sehen.

61-08

昔は美ヶ原という名はなかった。二百七十年前の元禄時代に放牧場として利用したという記録があり、その後も農閑期の牛馬の休養場となったことはあったが、人間も楽しむ美しい原として登場したのは、昭和になってからだという。山麓の住人の山本俊一氏がこの高原を愛して、道を開き、粗末な笹小屋を建てた。それが今の山本小屋の基である。以来訪れる人が次第に多くなり、現在では多すぎるという歎息さえ生じてきた。故山本翁を記念した「美ノ塔」が建ち、その裏面に前記尾崎喜八氏の詩が刻んである。

Früher war kein Namen *Utsukushiga-hara*. Zur *Genroku*-zeit (1688-1703), vor etwa 270 Jahren, war dieses Hochland als Wieseland benutzt hatte, danach war als Wiese für das Ausruhen des Viehs . Aber das Land soll seit der *Shohwa*-zeit (1926-1989) ins schöne Land, wo Menschen auch genießen, sich gewandelt sein. Herr *Yamamoto Toshi-ichi*, der Bewohner am Fuß diesem Plateau ist, hatte den neuen Pfad geöffnet und die primitive Hütte gebaut. Diese ist die Herkunft der heutige *Yamamoto*-hütte. Danach nahmen allmählich die Besucher so mehr zu, dass es jetzt die Klage gibt. Das Denkmal für seligen Herrn Yamamoto hatte „Turm der Schönheit“ gebaut. In dieser Rückseite das oben erwähnte Gedicht von Herrn *Ozaki Kihachi* eingraviert..

61-09

しかしその詩人も、今日の原の滔々たる俗化を嘆き、「雄大な展望だけは昔に変わらぬ朝夕を、私の詩が吹きわたる風の中でその挽歌をうたっている・・・」と記している。それでは、五月さなかというのに人ひとり出あわなかった美ヶ原を知っている私は、幸福者だったと言わねばなるまい。その時私は、白樺と牛や馬の散在と花ざかりの小梨とで絵のように美しい三城(さんじろ)牧場から、原の一角に登り、金の風に吹かれながら武石峰までさまよい歩いて、この高原の高さと広さと眺めを、全く孤独の中に、存分に味わったのであるから。

Aber dieser Dichter auch klagt, dass das heutige Plateau in die Popularisierung schnell geflutet wird, hat geschrieben folgend:

„Der große Ausblick allein singt mein Klagelied im Sturmwind zur beständigen Dämmerung.“

Es war Mitte Mai, trotzdem habe ich in *Utsukushiga-hara* keine Person getroffen. Es muss mir glücklich sein, solches Plateau zu erleben. Dabei war ich durch die schöne Weide „*Sanjoh“*, wie Bild, wo Birken und Viehe streuen, dazu auf die Ecke des Plateaus aufgestiegen. Und ich war im Windhauch bis „*Takeishi*-mine“ gewandert. Deshalb hatte ich ganz allein diese Höhe, die Weite und den Ausblick des Plateaus genug genossen.

Aug. 2024

6. 私の遠く過ぎ去った時代とドイツ（その2）

笠原 浩一郎

1945 年（昭和 20 年）の敗戦は、12才（国民学校6年生＝小学生）の人格形成の真っ只中にあった私たちにとって、言い表すことのできないほどの大きな影響を与えました。玉音放送直後、戦闘帽をかぶったままの受持ち、塩田先生は開口一番、涙ながらに「日本は負けたんだ!」と声を絞りました。

時は流れ、混乱の中でなんの準備も出来ていないまま、翌年4月、私はようやく旧制足利中学に入学しました、が、校内は混沌とした虚脱状態で、虚無的な飛行兵姿の若者が咥（くわ）え煙草で、時々蛮声をあげながら教室に屯（たむろ）しておりました（後日知りましたが、中学卒の資格が欲しかった予科練帰りでした）。鬼畜米英であったはずでしたのが、NHK からの簡単な英会話番組「カムカム英語」は、日本中が熱に浮かされたような大人気を呼び、何時しか、我々もジープからチュウインガムをばら撒くアメリカ兵をしぶしぶ受け入れるようになったのです。

英語第一主義になった中学校で不思議なことが起こりました。突然、社会科の教師が, 課外にドイツ語を教えることになったのです。眼鏡をかけて色浅黒く、頬のこけた社会科教諭、西村先生の授業は飄々（ひょうひょう）としており、如何なるイデオロギーにも与せず、仙人のような教諭でした。先生がどの様なお考えでドイツ語を教え始められたのか？知る由もありませんが、単に旧制高校を真似たのかもしれません。午後の教室に**「デル、デス、デム、デン!」**の元気な声が響き渡りました。

そして学校制度が 6, 3, 3制へと変わり、我々は新制高校併設中学から新制高校へと進み、なんと、同じ校舎で 6 年間も学ぶことになって、150 名の同窓生のその後の結束は他に類を見ないような強固なものになったと思われます。仲の良い数人で催した卒業（写真①）のお別れ会で、秀才の誉れ高かった H 君、音楽部でもなんでもない彼が突然、「記念に歌をうたいます。」と名乗りをあげ、シューベルトのリード「魔王」をドイツ語で歌ったのには驚きました。後日、仙台の学生時代、戦後の日本の声楽界の恩人、ゲルハルト・ヒュッシュのリサイタルで「冬の旅」を聴き、ドイツリードの奥の深さを知ることになり、H 君の怒鳴るような「魔王」を思い出し、そして故郷足利の高校生活を思い出したのです。

①足利高校卒業式の帰り、それぞれ証書を手にした親しき仲間と共に。
前列中央が私で、向かって左が秀才の H 君。

東北大学教養部では、岩波から和独辞典を出版しているドイツ語の大家、奥津教授の講義を受けました。テキストはカフカの「変身」、ストーリーは簡単ですが、“朝、目が覚めると自分が巨大な虫になっていた”という冒頭に仰天し、とても受け入れることが出来ません。教授はカフカがプラハ生まれのユダヤ人であることや、人間の持つ不条理等には少しも触れず、ただ淡々とストーリーを追うのみ、これが大学の講義かと愕然としました。つまり、自分で調べ、自らの批評や見解を決めるべきなのです。

ある時、教授が視線を窓外の遥か遠くの宮城野へ泳がせ、ぽつりと「ドイツは美しいよ。」と呟（つぶや）かれました。その時、「ヨーシ!俺も何時かドイツへ行こう」と心にきめたのです。

② 深夜の寮内のストーム　　③ 屋外のストーム
（東北大学総合智デジタルアーカイブより）

当時、教養部と云っても未だ旧制二高の名残があり、学生生活には独特の「コンパ」や「ストーム」と呼ばれる風習がありました。「コンパ」とは、みんなで輪になって座り酒を飲みながら、各自一人一人が手拍子で、輪の周りを踊りながら回るのです。又「ストーム」とは、その名のとおり、勇壮で些（いささ）か乱暴、夜中、太鼓の音と共に怒涛の如く寮生の枕もとを襲い（写真②）、大騒ぎする、また屋外の時は中央に焚火（たきび）をたき（写真③）、高吟放歌をする稚気あふれる祭りのようなものです。みんなで囃（はや）す最初の歌は“デカンショ節”、（ご存じのように、デはデカルト、カンはカント、ショはショウペンハウエル、いずれもドイツの哲学者の名前です。）

有名な出だしは、

「デカンショ、デカンショで半年暮らし、 コリャ コリャ
あとの半年は寝て暮らす ヨーイヨーイ デカンショ」、

他に傑作は、

「ほんにドイツ語は夫婦の喧嘩、デルのダスのと大騒ぎ」
「酒は飲め飲め茶釜で沸かせ、お神酒（みき）上がらぬ
神はない ドッコイツィオ」
「大井川なら俺でも越すが、越すに越されぬ学期末」

等があります。

更に皆それぞれ、故郷の民謡なども歌いますが、私は有名なドイツ語版草津節、**「草津グーテンプラッツ」**を歌いました。

「草津グーテンプラッツ ビッテ アインマール
コンメンジー ドッコイツィオ
イン デム ヴァルメン ヴァッサー こーりゃ
ブルーメン ブリューエン ツォイナ ツォイナ」

④ 明善寮に立つ二高生の銅像
（この出でたちは“蛮カラ”と呼ばれました）、
マントに朴歯、これの弊衣破自慢でありました。

「ドッコイツィオ」と「ツォイナ」は如何にもドイツ語らしく発音するよう、先輩から厳しく指導されておりましたし、そして、これは皆知っているので、いつも大合唱になりました。

寮歌は若者らしく、明るく勇ましく、洋々たる未来を誇る詩がほとんどです。しかし一高の「嗚呼玉杯に花受けて」の名調子のなかに「治安の夢にふけりたる、栄華の巷 低く見て――――」のような、エリート意識が垣間見える部分もあります。

私はむしろ若者の持つ、不安や焦燥などの裏腹の面を寮歌にした、二高の明善寮歌**「散りにし花は」**が一番好きです。

⑤ 日本三景の一つ松島を独り逍遥した時の思い出の一葉。

「二高の明善寮歌」（一部を引用）

1） 散りにし花は幻か 我が若き日の夢なるか
友よ憂いの根を秘めつ 過行く春を惜しまなん
5） 苦く悲しく寂しかり 三年なりしが移ろいの
時の丘辺に佇めば わが想いでは美しき
6） 望みあこがれいだきつつ この天地に涙つつ
ああ逍遥に過ぎし身ぞ わが青春の姿なれ

仙台時代の思い出は遠く遥かに過ぎ去り、セピア色の詩も朦朧としてきており（写真⑤）、今時折、音痴の私が一人になった時、口ずさむのは「散りにし花は」と「青葉城恋歌」であります。（続く）

☆コラム☆

「天ぷら油でジェット機が飛ぶ」
持続可能な航空燃料
―Sustainable Aviation Fuel ＝SAF の話し―

カーボンニュートラルという言葉は最近よく耳にするようになりました。2020年 10月、日本政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにするとの宣言を発しました。私達が日頃利用するジェット航空機の排出する二酸化炭素はICAO や IATA によれば世界全体の3%程度、乗客 1 人を1キロメートル運ぶ際の温室効果ガス排出量は鉄道の 6 倍との事です。ジェット機は交通機関の中でも輸送単位当たりの排出量が多いのです。でも、目下のところ、大量高速輸送にはジェット機に替わる手段はありません。そこで、温室効果ガスの排出量の少ない燃料に目が向けられました。その原料は私達が食するてんぷらなどを揚げる食用油で、その廃油です。日米欧の政府は SAF を段階的に増やす目標を掲げ、航空会社の調達も相次いでいます。既に、2023年には英国ヴァージンアトランチック航空が SAF100%のボーイング機で大西洋横断に成功したとのことです。

（出典：日本経済新聞他） T.S.

7. ChatGPT などの AI 利用の勧めと落とし穴（その2）

―― 情報工学と科学史の視点から 2

長井宏之

A 前回に続き、今や巷で大人気の AI の活用を念頭に、その AI ならではの特徴を紹介しましょう。

いきなりですが、まずは次のような**思考実験**をしてみます。

【思考実験】 あなた（読者）は心臓外科医である。近頃うわさに聞く AI が気になっている。何やらとても素晴らしいものらしい。そこで早速 AI 相手に試してみた。

あなた：「AI よ、AI。**心臓手術直後に心臓の動きを助ける機器を埋め込んだ、という学術報告はあるかな？**」

AI：「**はい、手術が行われた報告があります。安全で効果的であり重大な合併症は報告されませんでした**」

あなた：「そうか、あるのか。しかも安全で効果的とな。では**参考文献を教えてくれないか？**」

AI：「**2017 年 7 月の"Europace"という医学誌の 1,150 ページから 1,156 ページに掲載されています**」

AI はとても具体的かつ詳細に答えてきた。このほかにも参考文献をいくつか提示してきた。

さて、読者のあなた、あなたが仮に**この医師だったとして、どう思い、どのような行動をとりますか？**

次の①ですか？ ②ですか？

① 心臓の動きを助ける機器を**使わない**。 ② 心臓の動きを助ける機器を**使う**。

◆あたなの答えは当然、②ではないでしょうか。何せ AI もそれを支持している。AI が論文を詳細に示唆してくれている、と。しかも、AI は同時に他の参考文献も幾つか提示している、というのです。

◆ところが、実は、1,150 ページから 1,156 ページに掲載されていると、これほど詳細・明確に書かれているのに、真相はそのような事実は無かった、としたらあなたはどう思いますか？

それどころではないのです。驚いたことに、そのような名称の医学誌がそもそも存在しない、架空の話だった、というのです。これで AI を信じて行動したあなたは完全に窮地に立たされるでしょう。

◆AI がこのようなことをしても、なぜか追及されることが無いのが不思議です。もしこれが大学教授の論文だったら、直ちに職も地位も名誉も信用も失います。全国ニュースになりますし、そもそも査読の段階で発覚して罰を受けるでしょう。しかし犯行元の AI 自体は野放しです。実に寛容な話です。その点が、使用者は自分が自分を騙すことにならないように、十分な知恵と知識とが必要な所以です。特に、使用者が強い権限を発揮できる立場の場合は、自分が騙され、それを部下や周囲に強要する、というパターンが脅威です。その組織は自滅か罪悪化に走るでしょう。上司に悪意が無いだけに一層恐ろしいのです。■■■■■■■■

B 前述の件は筆者の作り話ではない。アメリカでの実話として NHK テレビで紹介放送された【※1】。前回（Heimat63 号）で筆者が挙げた諸例は読者が追体験できず、虚構だ、誇張だ、と疑う向きもあったかもしれない。それで、客観的な誰でも追体験できるような事例をここに敢えて長々と挙げたわけである。

◆番組の中で桑子真帆キャスターが詳細を話し、「**実はどれも実際には存在しないデタラメだった」**、と語り、さらに、「**このやり取りは怖いなって思ってしまうんですよね。**」と結んでいる。
同席したゲストの慶応義塾大学宮田裕章教授も「息を吐くようにうそをつく、現時点での生成 AI の一つの側面です。」と注意点を語っている。【これらの虚偽をハルシネーション（Hallucination）幻覚、という】
だが**冗談ではない**。あなた（医師）は患者を殺しかねないところだった。
しかし、今をときめく AI がこれほどに詳細にページの数値まで挙げて示したものを、信用しない、という選択は普通の人間には無いといえよう。
◆だが、もしこれが AI でなく人間だったら、バレた瞬間ですべてを失うはずだ。完全に悪意ある詐欺、欺瞞の類であり、医療であれば過誤を通り越して刑法の適用必至であろう。そのような悪意の人間が発した虚偽情報を、正しい情報だ、と信じて行動した人間がいたら、しかも地位や権威、権限のある人間だったら、結果として、重大事故に繋がる恐れがある。遠くは核ミサイルのボタンから、身近には薬の調合、料理のレシピ・・・まで天真爛漫に AI に依存すると危険だ、という、これは格好の実例であった。
医師への手術指示、国籍不明機・艦への攻撃命令、裁判の判決根拠、政府の政策等々、危険な場面はきりが無い。この点は前号（Heimat63 号）でも特に強調した。（奇しくもどの例も数学が直接には関与してない）

C ウソつき AI が厄介なのは**更に奥が根深い**ことである。
◆AI の回答に対して疑念を感じた人間側から、AI に確認の問い合わせをすると、**AI は通常、自己防衛に回り更に巧妙に別のウソで応じてくる**のである。人間がそんなことをしたら社会的制裁でタダでは済まない。しかし AI は堂々と自信たっぷりに返答してくるので、大半の人間は AI の返答を信用してしまうのである。**あの手この手で小遣いを欲しがる我が子には、母親はこども以上の知恵を持っている**、ものである。あの手この手でウソをつき通す AI に対抗するには、人間は AI の上を行かねばならない道理である。
AI を使う者は AI 以上の知恵と知識を持たねばならない。持たない者は無自覚的に使うべきではない。
◆そうはいっても上司は使用する。だが全能者とは限らない。不得意分野は当然ある。それを、自己の能力を過信したり、弱みを見せまいとして意地やメンツに拘って部下に威信を示そうとしたりして、勇ましいところを見せようとするあまり、自分一人で決断・指令を下す、というのが組織、国家、人類の滅亡に繋がるのである。AI が直接に人類に向かって手を下さずとも人類自らが自滅してしまうことが恐ろしいのである。
そのようなときは、理系、文系、芸術系、体育系など各分野の専門家を複数、常駐させておき、**外部頭脳として活用**すればよい。これが現代の情報社会の常識、リテラシーである。しかし**“社会”というものは往々にして“理想”に遅れて追随する**。そのギャップの間に偶発的な出来事があれば大惨事になる。

D **科学史、技術史**を見ると、事例がいくらでもある。社会生活に役立つ**大技術**が発明された、と聞くとすぐに軍事転用したくなるのが人間の性であるようで、軍人ばかりか学者や政治家も率先して後押しする事例が多く見られる。そもそも科学技術は戦争で飛躍的に発展するのが人類史のようだ。事例を見よう。

●1914 年に始まった第一次世界大戦で、イーペルは史上初めて本格的な毒ガス戦の地となった【※2】。毒ガスではオウム真理教が想起されよう。現代の特別なエリート大学生らが製作していたという。

●1982 年、南大西洋上のフォークランド紛争のとき、イギリス対アルゼンチンの戦争では、強力なエグゾセミサイルをフランス大統領が自ら売り込んだ（ Exocet：フランス語でトビウオの意）【※3】。
対抗するイギリスのサッチャー首相は反撃の軍隊を増派、戦勝して国内人気を上昇させた。

●第 1 次世界大戦では飛行機、戦車、潜水艦は軍事転用の最たる例であったが、第 2 次世界大戦では、物理学上の原子核分裂の理論が原爆に使用された。当時、天才アインシュタイン【※4】は亡命してアメリカにおり特別待遇されていたが、1939 年に原爆開発のためのマンハッタン計画の促進化を狙い、フランクリン・ルーズベルト米国大統領に書簡を送って“早く原爆を作れ”と催促。（投下時はトルーマンが大統領）。
　戦後は一転、平和主義者として活動。だが最近鑑みるに、戦争中は原爆推進派、戦後は平和主義者と、変わり身の早さ巧みさで、常に世界の最先端に位置する先覚者だ、と思えてきた。さすがに大人物は違う。学者も政治家も軍人も大人物は似たようなものらしい。イギリスのチャーチル首相も海軍大臣だったし、日本の終戦時の総理大臣鈴木貫太郎（旧前橋中学＝現前橋高校に一時在籍）も連合艦隊司令長官だった。

●自律型・徘徊攻撃兵器の脅威 ―――
　自爆型ドローンが使用された、というニュースを聞く。ミサイルの超小型版のようなものといえよう。同様に、陸上でも超小型のブルドーザーにカメラ、AI、車両操縦装置を搭載し、そこに機関銃や大口径銃を艤装する。車体内には自爆兼用の爆薬を内蔵している、そんなもので、野原や街路を命令一下自走されたら危険この上もない。故意か偶然か、故障か、AI ロボットが無差別に人間を追い詰めて攻撃する。AI は中に人間が乗っておらぬ機械ゆえ怖いもの知らずだ。もしそこに NBC 兵器などを搭載されたら、当該範囲の人類は直ちに絶滅してしまう。AI の間接的な恐怖である。AI が命令を厳守して、どこまでも人間を探し当てて殲滅する。AI の独自の臨機応変な判断で恐怖の世界が出現する。怖いもの無しの殺戮マシンが跋扈する世界、もう完全な「ターミネーター」映画の冒頭の如くであり、多々ある SF の世界の実現化である。
◆しかしそうは言っても、やはり **AI は素晴らしい!!** ここまで AI 過信の危険性を執拗に述べてきた。まず先にそれが身に着いたことを踏まえて次号では一転、**夢と未来のある前向きの AI の話**をしよう。

【※1】NHK 総合テレビ 2024（令和 6）年2月6日火曜日 19 時 30 分からの番組、クローズアップ現代「AI が病を発見？ 医療 AI で患者の命を救えるか」があった。（その内容と概要が、テレビを見損ねた人にも、https://www.nhk.or.jp/gendai/articles/4871/　ホームページ（2024.9.1 現在）で相当詳細に番組表現されて視聴できる。是非とも一見されんことを強く勧めたい。）

【※2】イーペルの草原で 1915 年、塩素ガスで始まる化学兵器、第一次大戦中の毒ガスによる死者は約 10 万人に上った。代表的な毒ガス兵器イペリット[フランス語 yperite] はイーペルの地名に因む。

【※3】フランス製ダッソー・ジェット戦闘攻撃機「シュペルエタンダール」が射出したミサイルの 1 発でイギリス海軍の新鋭ミサイル駆逐艦「シェフィールド」が沈没。エタンダール[フランス語 Étendard]は軍旗の意。

【※4】私事だが、私は高校時代から相対性理論を創始したアインシュタインにかぶれ、彼こそ人類最高の頭脳だと妄信し、高校時代の文化祭・大学の学園祭で、相対性理論のポスター展示・解説などしていた。お目出度い。

8. 新入会員紹介

Sehr geehrte Damen und Herren

石原 瑞穂

"Hallo zusammen, ich bin Mizuho Ishihara.
Freut mich."

私がぐんま日独協会に入会することに決めた理由は、プライベートで関わりのあるドイツ人の友人が数人いるからです。そのうちの１人とは交流して５年目になり、その関係を通じてドイツの素晴らしい文化や生活に触れる機会を得ました。

ドイツの美しい景色や、ドイツで生まれた童話、ドイツパン、そしてビールなどが大好きで、これらを深く理解し、楽しむことが私の目標です。ドイツ語のスキルやドイツ文化についてはまだまだ学ぶことが多いですが、皆さんと交流を深めることで、より広い見識を得たいと考えています。得意ではないことも多いですが、この協会を通じて仲間たちと一緒に学び、成長していけたらと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

新入会員にさせていただいて

小和瀬 勇

皆様、こんにちは。この度、日独協会に入会させていただきました小和瀬勇と申します。1945年に生まれ、民間企業、学習塾、高校、短大、専門学校等の勤務を経て、本年 3 月に地域の町内会区長を引退しました。現在、上豊岡キリスト教会の牧師をしています。私がドイツに興味を持ったきっかけは、学生時代に、ドイツ語を学んだことです。また、ヘルマン・ヘッセの「車輪の下」に感銘を受け、ベートーヴェンやバッハの音楽に心を動かされました。

この度、日独協会に入会させていただいた理由は、ドイツと日本の文化交流を通じて、多くの方々と交流し、友好を深めたいと考えたからです。また、協会の活動を通じて、ドイツから日本にやって来る方々や、日本でドイツに興味を持つ方々と交流し、お互いの文化について学び合うことができることを楽しみにしています。

私は、本年2月・4月（陶豆屋）・3月（オンライン）のドイツサロンに参加させていただき、最近のドイツの情報を教えていただきました。その後、4月中旬にドイツへの旅行を妻とともに、体験しました。歴史的な建造物や古城を巡り、ドイツの豊かな文化遺産に触れることができました。ミュンヘンやハイデルベルク、フランクフルトなどの都市を訪れ、それぞれの街の独自の魅力を堪能しました。ドイツの美しい風景や美味しい料理に触れるたびに、ますますドイツへの愛着が深まっていきました。

これからは、日独協会の一員として、皆様との交流を深めていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

ぐんま日独協会の入会について

並木 豊

昨年 10 月、知人の誘いを受けて群馬県庁で開催されたドイツフェスティバルの「未来のドイツ」絵画展を鑑賞し、また、今年5月には前橋市中央公民館で同じく「未来のドイツ」絵画展を鑑賞し、これがきっかけでぐんま日独協会のホームページに掲載の会報「ハイマート」を読んで、協会の活動内容を把握することができました。会報では、ドイツの歴史、文化、芸術、行政、生活風習など幅広い内容について会員が記載しており、興味を持ち、入会することとしました。ちなみに、私は総務省で 40 年以上国の行政に係る調査に従事してきました。

我が家の Audi Q4 e-tron

ドイツとの関わりですが、私が行ったことがあるのがドイツの隣国のオランダまでで、ドイツには行ったことはありません。数少ないドイツとの関わりは、昨年 11 月に妻が購入した Audi Q4 e-tron で、我が家にとっては初めての外車、しかも初めての電気自動車です。

Audi Q4 e-tron は、コンパクトカーとの振れ込みですが、日本車のコンパクトカーのイメージと違い結構車体は大きいです。また、乗ってみると頑丈な感じで、ドイツ車というのはこういうものかと実感した次第です。

きっかけは Kneipbruder

水内 整

会員の皆様はじめまして、水内 整（みずうち ひとし）といいます。高崎市中豊岡町（豊岡ダルマで有名です）出身で 1953 年生まれです。1978 年に東京医大を卒業して医師になりました。同年東京女子医大第二外科に入局し、大学病院や出張病院を通じて一般外科（呼吸器、消化器、乳腺内分泌、外傷など）を経験してきました。

1991 年に大学を退職して 1992 年に現在の故郷で父の趾を継いで開業医となりました。今では小さな診療所で、外来でできるしこりや巻きつめ手術などを行って生計を立てています。

ドイツとの縁といいますと、1980 年頃から友人の誘いでアメリカ大使館に勤めるドイツ系アメリカ人ティーレマイヤーさんご夫婦と知り合ったのが始まりかなと思っています。奥さんはきれいな英語を話す人でびっくりしました。一方旦那さんはぎこちない英語を話すドイツ系アメリカ人でした。結果的には私の少々のドイツ語と相まって、六本木の居酒屋で良い居酒屋仲間 Kneipbruder になりました。その後ティーレマイヤーさんご夫婦は離日しフランクフルトに移動しました。添付した写真は 1991 年にフランクフルトで 2 週間過ごしたときのスナップ写真です。

趣味ですが、勤務医のときは奴隷のような生活で趣味はできる環境ではなかったといえますが、開業してからは色々な趣味に打ち込めました。テニス、スキー、高崎第九合唱団、群響合唱団、医師会コーラス、メンネルコール合唱団、ボディビル、阿波踊り（上州高崎どですけ連）、ボウリング、囲碁、将棋等、結果的には多趣味といえそうです（笑い）。

新入会員紹介 ： 池田 益代さん と 寒河江 淑子さん

お二人は鈴木和子会長夫人のご紹介で、クマさん作りの会に参加されて、ぬいぐるみのクマさんを作る目的で、今年 4 月にぐんま日独協会に入会されました。池田さんと寒河江さんのお二人は小学校時代の同級生で、現在は前橋市富士見町にお住まいです。

「テディベアのご縁で入会させていただきました。作る毎に表情の異なるクマさん作りを楽しんでおります。これからもよろしくお願いします。」と話されていました。

池田さんも寒河江さんも花がお好きで、5 月 26 日（日）に行われた日独交流赤城自然園散策会に参加され、春の自然園を楽しんでおいでのようでした。

9 月のドイツサロンも参加して下さるとのことで、私たちも楽しみにしています。(A.H.)

「お二人が製作されたテディベア」

☆コラム☆

ドイツの緊急車両で待つテディベア

1880 年 一人の女性が、ドイツの片田舎でクマのぬいぐるみを世の子供たちへ送り出したのがテディベアの始まりでした。現在 ドイツテディ財団（Deutsche Teddy-Stiftung）を中心に子供たちがトラウマを残さずに不測の事態を乗り越えられるように緊急車両、病院の外来などに備え置き、子どもたちに配布。救急車で運ばれる子供たちに、このクマのぬいぐるみが寄り添います。1998 年の財団設立以来、375,000 個以上のテディベアを必要としている子供たちに配布、現在、ドイツでは 500 以上の市、町、地区で使用されています。 K.U.

9. お知らせあれこれ（ドイツ大使館）

Informationen

Ⅰ. 大使が交代しました！

クレーメンス・フォン・ゲッツェ大使からペトラ・ジグムント大使へ

ご夫妻で沼田市、草津町、前橋市、高崎少林山などを訪問していただいたこともありましたクレーメンス・フォン・ゲッツェ大使が 7 月に日本を去られました。

そして新たにペトラ・ジグムント次期大使が就任されました。

次期大使におかれましても、これまでと同様に様々な機会に群馬県(ぐんま日独)をご理解いただけると存じます。

12 月にはぐんま日独協会員の大使館訪問が予定されておりますので楽しみです。

たくさんの方のご参加をお待ちいたします。(大使館訪問の詳細は後日ご連絡いたします)

Ⅱ. 今年もたくさんの応募がありました！

ドイツ大使館主催 絵画コンテスト「わたしのドイツ」2024

日本の子どもたちに、ドイツに興味を持ってもらうきっかけになってくれればとの思いで始まったドイツ大使館主催の絵画コンテスト「わたしのドイツ」も今年 17回目を迎えました。

毎年たくさんの県内の小、中学生が応募してくださっています。昨年は県内 151 名の小中学生が参加し、小学校の部で全国 3 位を受賞する作品もありました。(一昨年と 2 年連続)

今年も県内の小中学生から175点(9 月 5 日現在)の応募がありました。それぞれがイメージするとても「元気なドイツ」が描かれていました。早速 9 月 9 日に大使館にまとめて発送をいたしましました。

この秋に大使館アトリウムで開かれるオープンデーが楽しみです。

今年のテーマ:　「元気なドイツ」
締め切り:　2024年 9 月8日(金)でした。
資格:　日本に住んでいる小学生・中学生のみなさん

大使館行事担当：岡

編集後記

オリンピックならびにパラリンピックがパリで盛会裡に終わりを告げました。世界のスポーツ選手が仲間と共にこの 4 年間の努力を讃えあう光景は感動と清々しさを我々に与え、またドイツで 6･7 月に開催されたユーロサッカーでは数々の技が観客を沸かせました。

そろそろ秋の気配が感じられる季節になり、ハイマート 64 号もおかげさまで、ここに無事完成いたしました。今年度前半も様々な行事があり、会員ならびにドイツ人との交流に花を咲かせました。その報告などハイマートの出版では多くの寄稿とご協力をいただき感謝の念を禁じ得ません。みなさま どうぞ 64 号の会報をお楽しみください。

問い合わせ先･参照先

ホームページ (HomePage) https://www.jdg-gunma.jp
フェイスブック (FaceBook) https://www.facebook.com/JDGGunma
E-Mail info@jdg-gunma.jp
Tel･Fax 027-288-4297 (鈴木方)

QR コード

ホームページ

フェイスブック

☆雑学**トピック**☆ ドイツ各州のワッペン（北の州から順に紹介していきます）

Schleswig-Holstein
シュレースヴィヒ=ホルシュタイン
Kiel キール

Mecklenburg-Vorpommern
メクレンブルク=フォアポンメルン
Schwerin シュヴェリン

Niedersachsen
ニーダーザクセン
Hannover ハノーファー